

授業科目等の概要

(教育・社会福祉分野専門課程 介護環境科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		ホームルーム活動Ⅰ	自然体験活動を通じたレクリエーションや学校行事などの場において、主体的に考え行動する中で、互いの価値観の違いを感じながら、チームワークの土台となるコミュニケーション能力を高める。 介護福祉士の役割において重要な「人間理解」について必要なスキルとは何かを考え、深める。	1通	60	2		○		○	○	○	○	
2	○		情報技術	情報技術（インターネット・各デバイス・officeアプリケーション）についての基本的な知識、技術を身につけるとともに、その正しい取り扱い方について学ぶ。（パソコンの基礎、インターネット・メール、Word、Excel、Powerpoint）	1前	30	1		○		○			○	
3	○		自然と環境	自然の中で動植物などに触れ合う活動をし、命について考える。自然を通じ他者と触れ合う中で完成を磨き、自己を表現する場を持つ。 介護福祉士が習得すべき「環境（自然、人的、物的）」とは何かを考えるための視点について、様々な地域の自然環境や生活する人々に触れ体験することで視野を広げ、柔軟な思考を身につける。	1前	30	1		○		○	○	○		
4	○		障害者とスポーツⅠ	障害者とスポーツの関係を見つめ、実施者の感覚に立脚した動き（指導法）について学ぶ。 障害者スポーツ指導教本に基づいた理論的な学習や実技実習を通して、障害者スポーツの指導に関わる基礎的能力を身につける。	1前	30	1		○		○	○		○	
5	○		国家試験対策Ⅰ	これまでの国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、介護福祉士国家資格の取得に必要なとされる力を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
6	○		文章表現	書き手の意図が正確に読み手に伝わる文章がいかにあるべきかについて、実践的に学ぶ。	1後	30	1		○		○			○	
7	○		アクティビティ・ケアⅠ	アクティビティ・ケアの様々な実践例から、その実際を学び、その一つ一つのアクティビティが、どうプランニングされケアに結びつくのかを実践例（体験）を通して理解し、実践へのイメージを持つ。	1後	30	1		○		○	○		○	○
8	○		人間の尊厳と自立	人はどのような状態にあっても、他者の尊厳を認め合うことを理解する。 福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通じて人間の尊厳、人権尊重及び権利擁護の考えを学ぶ。 本人主体の観点から自立の考え方や自立生活の理解を通して、その生活を支える必要性を理解する。	1前	30	2	○			○			○	



19	○		認知症の人の支援	認知症の人への支援の基本的な視点を実践を通して学ぶ。 様々な日常生活の場面を想定し、事例を通して一人一人に合った個別性のある認知症ケアの視点を学ぶ。	1後	30	1	○	○	○	○	○	
20	○		介護過程 I	プロセスごとに演習を組み込むことで、振り返りと実際に介護過程を展開する方法を学ぶ。 事例を用いた演習課題を繰り返す行うことで介護過程を展開する力を身に付ける。	1通	90	3	○	○	○	○	○	
21	○		介護実習指導 I	①介護実習の指導、②他科目での学びの統合化、③多職種協働の意味と重要性の意識化、④学習到達状況の把握と個別指導、⑤養成教育全体の総まとめを目的として、450時間の介護実習の全体像を踏まえた上で、介護実習前には介護技術の確認また実習後には事例報告会などを行い、次の実習につなげていくことを目指し、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習を展開する。	1通	90	3	○	○	○	○	○	
22	○		介護実習 I	対象者の地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士としての役割を理解するとともに、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践する能力を習得する。	1通	250	6	○	○	○	○	○	
23	○		認知症の理解 I	認知症の定義、認知症の人の医学・行動・心理状態等について理解する。 認知症の人の体験・生活について学び、認知症の進行に応じた関わり方について理解する。 演習の進行に伴う役割（司会・書記・発表者）を経験し、チームワーク・リーダーシップを理解する。	1前	30	2	○	○	○	○	○	
24	○		障害の理解 I	心身に障害を持つ人を理解するため、体験談や事例を取り入れグループ討議を行い、自己覚知を進める。 疑似体験など演習を取り入れ障害を持つ人の生活を具体的に理解し、講義で学んだことを自分の言葉で述べる場を持ち、自己の考えを言語化する。 医療職と連携協力していくための、心肺機能の基本を学び、実際の具体的援助方法を身につける。	1通	30	2	○	△	○	○	○	○
25	○		こことからのしくみ I	介護実践の根拠を学び、人間の基本的欲求や生命維持のしくみなどを理解する。 利用者の生活を支える介護実践（食事、排泄、身じたく、睡眠など）との関係を学ぶ。 人体の構造や機能についての基礎的な知識を知り、介護実践との関連を学ぶ。	1通	60	4	○	△	○	○	○	○
26	○		医療的ケア	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全かつ適切に行うために必要な基礎的知識・技能を習得する。 医療的ケア実施時の留意点や緊急時の対応など実践的知識を習得する。 解剖学的な基礎知識から医療的ケアの手順、技術へと知識を積み重ね、次年度の基本研修（演習）に向けての見通しを持つ。	1通	50	4	○	○	○	○	○	

27	○	ホームルーム活動Ⅱ	クラスレクリエーションや学校行事などを自ら企画・実践する中で、信頼関係の構築・エンパワメントを意識しながら積極的に人と関わり、コミュニケーション力など介護福祉士に必要なとされる能力を高める。自然などに触れ合う機会を設け、気づきを養う視点を高める。	2通	60	1	○	○	○	○	○	○
28	○	障害者とスポーツⅡ	障害者とスポーツの関係をみつめ、実施者の感覚に立脚した動き（指導法）について学ぶ。障害者スポーツ指導教本に基づいた理論的な学習や実技実習を通して、障害者スポーツの指導に関わる基礎的能力を身につける。	2前	30	1	○	○			○	
29	○	国家試験対策Ⅱ	国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、ポイントを押さえて、介護福祉士国家資格の取得に結びつける力を習得する。	2前	30	2	○		○		○	
30	○	国家試験対策Ⅲ		2後	30	2	○		○		○	
31	○	アクティビティ・ケアⅡ	アクティビティ・ケアの様々な実践例から、その実際を学び、その一つ一つのアクティビティが、どうプランニングされケアに結びつくのか、方法を更に理解し、それを踏まえて実践する。	2前	30	1	○		○		○	○
32	○	人間関係とコミュニケーションⅡ	介護の質を高める為に必要なチームマネジメントの基礎的な判断力及び豊かな人間性を養う。介護サービスの特性と求められるマネジメントを学ぶ。組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ、フォロワーシップ等チーム運営の基本を理解する。	2後	30	2	○	△		○	○	○
33	○	児童福祉論	子どもの権利を保障するための児童福祉法をはじめとする児童福祉関連の法律や制度について理解を深める。その際、常に自分に置き換えて「自分だったら」と考える視点を持ち、他者の考え方に触れることができるよう、グループによる演習を行う。	2後	30	2	○		○	○		○
34	○	地域福祉論	地域福祉推進の担い手としての介護福祉士の役割は何かを理解する。在宅福祉サービスのあり方や地域を基盤とした援助のあり方を理解する。現代の時代背景を踏まえ、中核的推進組織である社会福祉協議会やコミュニティ・ソーシャルワーカー、及び在宅福祉サービスの現状と課題、さらには住民自身が地域福祉課題を解決していく主体的活動である「NPO活動」や「ボランティア活動」、「当事者組織」のあり方とその支援方法について学ぶ。	2後	30	2	○		○	○	○	○
35	○	視覚障害者・聴覚障害者の支援	手話及び点字の学習を通してその知識、技術等を学び、聴覚障がい者及び視覚障がい者に対する理解を深める。	2後	30	1	○		○			○
36	○	リスクマネジメント論	「本人が望む生活を支える」や「QOLの維持・向上」の視点など、利用者の「生活」を支えるという視点から、高い倫理性を保持し、専門的な活動を行うために必要なリスクマネジメントの能力を獲得を目指す。尊厳・倫理の保持の視点から事例の検討を行い、実践に照らし合わせ学びを深める。	2前	30	2	○		○		○	

37	○		コミュニケーション技術Ⅱ	対象者を理解したうえで具体的なコミュニケーション技法を習得する。 ロールプレイ、グループ学習を通してコミュニケーションのあり方を学ぶ。 チームコミュニケーションでは、情報の共有化の意義を理解し、具体的な方法を学ぶ。	2前	30	1		○	○	○	○						
38	○		生活支援技術Ⅰ-②	高齢者の生活を支える上で、食事には重要な役割があることを理解し、身体状況に合わせた安全な食事提供ができる知識や技術を取得する。 食生活の基本知識と、高齢者の身体状況を理解した上で、調理の基本や調理実習で実際の食事を作り、目で見て食べて理解する。	2通	30	1		○	○	○	○						
39	○		生活支援技術Ⅰ-③	住環境の基本的事項を習得する。 住居における、安全に暮らすための工夫や空間を理解する。 福祉用具の重要性を理解する。 福祉用具の種類や選び方、活用方法について理解する。	2通	30	1		○	○			○	○				
40	○		生活支援技術Ⅱ-②	本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる力を身に付ける。 根拠を明確にし、多様な利用者の状態像に適した生活支援技術の技法を学ぶ。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。	2通	60	2		○	○		○						
41	○		生活支援技術Ⅲ	疑似体験、グループ演習などにより、さまざまな障害をもつ人の理解を深める。 様々な機能に障害を持つ方々への自立支援や介助時の配慮点を学び、具体的な支援の方法とは何かを探る。 聞こえと難聴について、補聴器を購入するまでの流れを知り、補聴器の取り扱いを実習する。	2前	30	1		○									○
42	○		介護過程Ⅱ	事例を用いたグループによる立案、討議、発表等を行い、介護過程の展開の意義を理解する。 グループ討議を主とした形式で、他者批判せずに協調性を身につける。	2前	30	1		○	○		○						
43	○		介護過程Ⅲ	文章表現の方法を理解し、報告書作成に取り組む。 これまでの介護過程の授業の集大成として、介護過程の展開を文章化し、報告書としてまとめる。	2前	30	1		○	○		○						
44	○		介護実習指導Ⅱ	450時間の介護実習の全体像を踏まえ、個別的生活支援が介護過程に基づいた専門的・計画的なものであることへの理解を深める。(個別の学習状況に応じた総合的な学習を展開する)	2前	30	1		○	○		○						○
45	○		介護実習Ⅱ	対象者の地域での生活を支える施設・期間の役割を理解し、様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士としての役割を理解するとともに、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践する能力を身につける。	2通	200	5			○	○	○						○

46	○		発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長・発達の基礎的知識と、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。 また、高齢者に起こってくる心身機能の変化が、日常生活に及ぼしている影響を学び、その対応や健康な生活を考える。	2前	30	2	○		○	○					
47	○		発達と老化の理解Ⅱ	実習での経験や自己の生活経験を振り返り、生活に密着した、実践に沿った学習を目指し、人間の成長・発達の基礎的知識を習得する。 また、高齢者理解のため、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関し、発達理論をもとに基礎的事項を解説し、それにより起こってくる日常生活での心身機能の変化を学ぶ。	2後	30	2	○		○	○					
48	○		認知症の理解Ⅱ	認知症の方への介護の基本視点を理解し、それをもとに個別支援及び家族支援とは何かを学ぶ。 認知症の方を取り巻く様々な環境や資源（家族を含む）を理解し、多職種連携の必要性や方法、介護福祉士（専門職）としての支援のあり方を学ぶ。	2後	30	2	○		○						○
49	○		障害の理解Ⅱ	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 障害福祉をめぐる制度について理解を深める。	2後	30	2	○	△		○					○
50	○		こことからだのしくみⅡ-①	生活場面（移動・身支度・食事・入浴など）ごとに心身の機能低下、疾病、障害に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。 生活を支える介護実践の根拠とその関連性を学ぶ。 介護ニーズの多様化に応えられる専門性の根拠となる基礎を学ぶ。	2前	30	2	○	△		○					○
51	○		こころとからだのしくみⅡ-②	生活場面（排泄・睡眠・終末段階など）ごとに心身の機能低下、疾病、障害に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。 生活を支える介護実践の根拠とその関連性を学ぶ。 介護ニーズの多様化に応えられる専門性の根拠となる基礎を学ぶ。	2後	30	2	○	△		○					○
52	○		医療的ケア演習	「たんの吸引」「経管栄養」「救急蘇生法」をシミュレータを用いて、一人で効果的に行う力を習得する。	2通		4		○		○				○	○
合計						52	科目	2,300			単位時間					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>こども環境科を卒業するには、専門課程に2年以上在学し、別表に定める所定の科目を履修し、最低79単位以上を取得し、かつ次の（１）または、（２）の規定する所定の科目を履修した者には専門士の称号を授与し、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業要件：（１）幼稚園教諭2種免許状を受けようとする場合には、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める別表の科目の必要単位数を取得しなければならない。</p> <p>（２）保育士となる資格を取得するためには、平成30年4月27日厚生労働省告示第216号に定める別表の科目の必要単位数を取得しなければならない。</p>	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：当該学年の時間割に記載されている科目を履修する。	1 学期の授業期間	21 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。